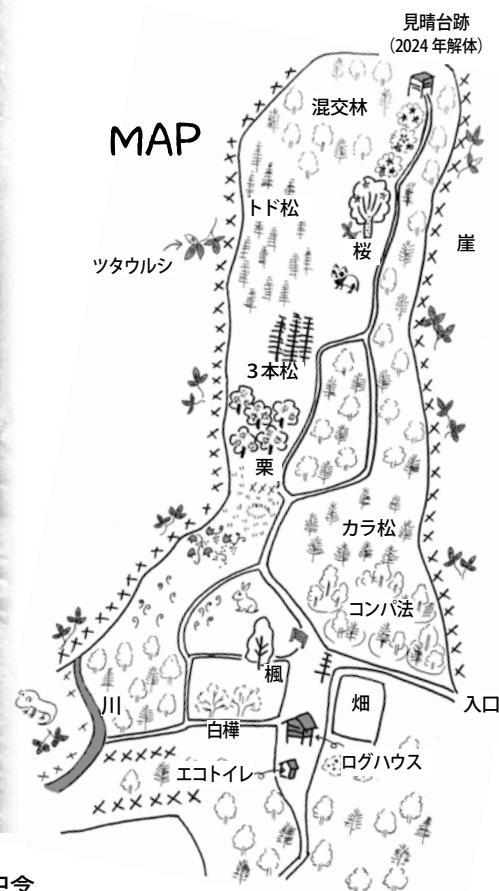




海を育むフィービラの森 森開きしました！



森開き作業の合間に参加者の一人がオカリナを演奏♪
透き通る音色が森に響き渡りました (5/3)

2002年、生活クラブ北海道は創立20周年記念事業のひとつとして、古平町の山奥に放置されていた牧草地を購入。古平の人たちと共に育てる森づくりの思いを込め、「フィービラの森」と名付けました。使われなくなった土地が豊かな森になると、その栄養分が海に流れ、美味しい魚を育てるという循環が生まれます。20年以上かけてすっかり豊かになったフィービラの森。現地の作業に参加するのはもちろん、活動資金となる牛乳パックを回収に出すことも森づくりにつながります。ぜひ、ご協力ください。〈森づくりプロジェクト〉



こんな森をつくりたい 3つの柱

1. 古平の海を育む森づくり
2. 環境活動実践の場
3. 自然を身近に感じ楽しむ場

INDEX

生活クラブ米を知って食べ続けたい 3

支部のくらコミ活動をお伝えします 4~5
いしかり支部 / 北斗支部 / 清田支部

委員会活動紹介 6
石けん運動委員会

生活クラブのまちづくり拠点 7
岩見沢支部

生活クラブ Wind



組織活動

昨年は外部団体が行う雑貨マーケットに出展して、拡大活動をしました。今年度もいくつか出展を予定しており、まずは6月28・29日に中央区の創世スクエアで開催される、「フェアトレードフェスタ in さつぽろ2025」に参加します。各支部から手伝いに来てくれる組合員と一緒に消費材のお試し販売やみかんジュースの試飲などで、生活クラブをおすすめします。お友達を誘ってぜひ来てください。



消費委員会

5月から牛乳プロジェクトが活動を始め、牛乳の価値や利用の仕方などを発信していきます。生産コストが上がり厳しい状況の中、7戸の提携酪農家は低温殺菌を可能にする生乳を生産しています。牛乳1本につき1円を積み立て、生乳生産に必要な資材を届けるしくみ「もっとMOREミルクアクション」。2024年度は、32万7547円の積み立てができ、搾乳器具などの殺菌剤や衛生手袋を届けました。



福祉・たすけあい

子育て中の不安や孤独感を解消する環境づくりのため、「子育て支援 親子ひろば ほととた いむ」を大谷地(厚別区)と桑園(中央区)でおこなっています。親子で好きな遊びを楽しんだり、お友だちやスタッフとおしゃべりしたり、持ってきたお弁当を食べたりして、ゆったりほっとする時間を過ごしています。



文化委員会

「オリライ紙芝居憲法出前講座」は、憲法を鑑に国家権力をライオンに例えて、わかりやすく憲法を学べる講座です。2人以上の組合員が集まれば開催でき、会場は会館や自宅など、どこでも大丈夫。憲法は私たちが自分らしく幸せに生きることを保証するためにあるんだ、そんなふうに思える時間を大切にしています。



5月の理事会から

2025年度年間監査方針・監査計画について報告があり、確認しました。

エコロを組合員に周知するため、8月31日に札幌エルプラザで、子育て応援企画「エコロ たすけあいフェス」を開催すると報告がありました。

10年プロジェクトより、夏休みの保養リフレッシュツアーに20組の申込みがあり、4組の受け入れ家族を決定したと報告がありました。

2025年度ヒロシマ・ナガサキ平和行動の参加者3名が決まりました。

9月2日、生活クラブ館・北広島で韓国ハンサム生協と生活クラブが、行政とのまちづくり連携及び生産者訪問を通して交流会を実施することを決定しました。

生活クラブ米を知って食べ続けたい

2024年の夏頃から続く米不足により、米価は高騰。備蓄米を放出しても、日本の米市場は今なお混乱しています。生活クラブでは2024年11月と2025年4月に、米の共同購入価格の値上げを行いました。価格は産地の状況を反映します。生活クラブ米の状況や提携について理解し、これからも食べ続けていきましょう。

持続可能な生産を実現する生活クラブ米

常勤理事(消費委員会担当) 多田 健介

米の提携産地である滝川市江部乙町との歴史は、1980年代にまで遡ります。食糧管理法のもと政府が米の流通を管理する時代に、北海道の米づくりと農業の発展をめざして、消費者である生活クラブが産地を指定。交流を継続しながら栽培方法の明らかな米作りを追求してきたのは、画期的なことでした。1988年に当時の江部乙町農協と協同組合間提携を正式に結び、価格・流通体系は農協の仕組みで運用することになりました。生活クラブ米の価格も農協が発表する北海道米の基準価格をベースに、厳しい自主基準での生産体系を考慮した価格設定としています。また、生産を担うとんぼの会、集荷・流通・品質管理を担う農協、精米を担う(株)食創との連携により、生活クラブの希望依数分の種子の安定供給、米の品質管理が徹底されており、年間を通して欠品なく美味しいお米が届けられています。

2024年、米穀情勢が大きく動きました。外食の回復、防災備蓄意識の高まりなどから米の需要が上昇。猛暑の影響や東北地方の気候災害もあり、全国的な米不足の情報も広がって市場から米が不足していきましました。1995年の食糧管理法の終了とともに米は自由流通できるようになり、農協だけではなく一般商社、個人でも自由に売買ができます。各事業者による米確保の

動きが激化し、米相場が上昇しました。現在、政府は備蓄米の放出による需給バランス調整と米価安定をすすめています。混乱は長期化しており、一部で輸入米の市場流通の増加も見られました。

自給率がほぼ100%である米の輸入拡大は、日本の農家を追い込むことに他なりません。国内の一次産業を衰退させる要因となることは避けるべきです。生産者の努力も、すでに最大値に達しています。国政においても、食料安全保障を掲げるのであれば、公的支援をもって生産費を十分に保障し、価格を適正に保てるような施策の実現を望みます。

2024年11月、生活クラブ米の共同購入価格も大きく変わりました。この価格は、肥料をはじめとする生産資材等の価格高騰により上昇した生産コストを補い、とんぼの会の持続可能な生産を保障しうる適正価格として決定したものです。価格は産地の状況を映し出します。私たち消費者は、「高いから選ばない」のではなく、産地に思いをはせながら「理解して道産、国産を選ぶ」ことが大切です。食べる力を結集し、発信力を高めながら課題を提示していく。この取り組みこそが、生活クラブがめざす北海道の農業の発展につながるのではないのでしょうか。

今年度も とんぼの会の米づくりは「温湯消毒」からスタート！

農薬を減らし
環境にもやさしい

北海道の慣行栽培で使用する農薬の平均成分回数は22回といわれていますが、生活クラブ米はたった8回以内です。米づくりは、害虫や病害から稲を守るために行う温湯消毒から始まります。種もみを湯に浸して消毒してから水で2回濯ぐ大変な作業ですが、生産者の努力により農薬成分回数1～2回を削減しています。

作業の様子がわかる
動画はこちら



消費委員長・運営委員長・理事が作業を見学し、会長の埴淵義和さんから話を聞きました
(JA たきかわ 北の米蔵(江部乙町) 4/12)

伝えます

くらぶコミュニティ(くらコミ)は、生活クラブの組合員を増やす「拡大」に取り組んでいる集まりです。それぞれの地域にあう拡大のやり方を考え、実践しています。今回は3支部の活動を紹介します。

清田 支部

2024 年度は、組合員が友人・知人を誘ってより参加しやすいように、毎月の日程を年度始めの機関紙に載せて開催しました。テーマは消費材。支部のお便りでも「お友だちも一緒に」と、組合員外の参加を呼びかけました。12月におこなったまとめ集会を兼ねた拡大イベント(右写真)では、32種類のお菓子を用意して参加者と一緒に包材や原料を確認しながら食べました。改めて消費材の良さを語りあうことができ、意識が高まりました。

2025 年度は組合員同士がつながり拡大ができる場を、食に限らず様々な視点から企画して、みんなで仲間づくりをしていければと思います。今年度最初のイベントは、サステナブル委員会の出前講座「ミツロウラップを作ろう」でした(右写真)。布に蜜ろうを染み込ませて作るラップを使うことで、プラスチックのごみを減らせます。生活クラブと言えば添加物を使わない「食」がメインだと思われがちですが、食をきっかけにゴミや環境、エネルギー、福祉など様々な課題に取り組んでいることを伝えました。(運営委員長 遠谷 翔子)

2024



カタログのお菓子大集合！

2025



環境に深刻な問題を及ぼすプラスチックごみ問題について学びました(4/22)

和気あいあい♪
ミツロウラップづくり



斗 支部

年度は5・9・10月の3回、事前に周辺地域へ生活クラブのチラシと支部のオリジナルチラシをまいて、あみーかを稼働しました。また、7月は当別町、12月は集合住宅を中ラシをまくなど、たくさん歩いて活動した1年でした。

年度は5月17日にスタート集会を行い(左下写真)、活動を開始しました。加入目標とし、まずは重点エリアと定めた「あいの里」「南あいの里」での加入10人をめざす活動について話し合いました。その第一弾として、6月6日にあいの里でレンタルスペースを利用し、あみーかを開催します。牛乳やウインナーを試食してもらい、来場者に生活クラブの消費材の魅力を体感してもらう予定です。その後も、料理講習会の開催や、配達料半額キャンペーン・紹介キャンペーンを活用して拡大をすすめていきます。また、チラシまきは広いエリアに無理なく対応できるよう、枚数と範囲を分担して行うことにしました。昨年度は重点エリアでの加入目標10人に惜しくもあと一人届きませんでしたが、今年こそは「めざせ、目標達成！」を合言葉に活動を進めていきます。生活クラブをひとりでも多くの方に知らせ、食べて・使って、その良さを実感してもらいたい…そんな想いを込めて、今年度も積極的に活動します。(運営委員 末久 晴恵)



2024



楽しく仲間づくり

支部のくらコミ活動をお

いしかり 支部

いしかり支部のくらコミは、第2の運営委員会の役割をもって活動している、支部にはなくてはならない機関会議となっています。3月の支部大会終了後に次年度のスタート集会を行い、年間の活動計画を話し合います。メンバーは運営委員も含め10人。毎月の会議では「食べてみたい、組合員に紹介したい消費材」をみんなで試食しながら活動内容を話し合ったり、様々な日常の情報交換に花が咲いたりもします。そして最後にまとめの会を行い、1年の活動を締め括ります。

2024年度は、展示説明車あみーかによる拡大を6回行いました。国岡製麺(株)とのコラボ拡大(右上写真)では、事前に市販品の市場調査をして食品表示問題を一緒に考えました。また、地域のイベント「まちフェスいしかり」にも参加し(右写真)、来場者に生活クラブをアピールしました。どの拡大も、来てくれた方々に私たちの消費材への思いを共有することができ、たくさんの加入につながりました。

2025年度は3月22日にスタート集会、4月15日に打ち合わせを行い、花川南地区を1条から順にまんべんなくチラシをまいて、あみーかによる展示説明会を開催することにしました。また、9～10月の紹介キャンペーンに合わせて、ウィンナーなどの生産者バルナバさんに来てもらう計画も立てています。11月には昨年同様「まちフェスいしかり」にも出展します。

今年も展示説明会(左写真)から活動がスタートしました！(担当理事 山崎 栄子)

2025



今年初のあみーかにはたくさんの方が来てくれて、その場で加入を決めてくれた方も(5/17)

国岡社長と
ラーメンの食べ比べ

2024



保存料や着色料を使わず、
道産小麦100%で作ってます



みかんジュースの試飲で
安心・美味しいをアピール！

北

2024
ナルチ
心にチ
2025
を35人
す拡大

あみーかは、消費材を実際に
手にとって見てお試し買いがで
きるから、より生活クラブの良さを
伝えることができるんです♪

2025



石けん運動委員会

石けん運動とは、合成洗剤の使用をやめて石けんを使いましょうと呼びかける運動のことです。生活クラブの数ある委員会の中で「運動」がつく委員会は、ここだけ。水環境を学び、石けんを広める活動を担う委員会の様子を紹介します。



人の体にも環境にもやさしい石けんをたくさんの人に使ってほしい

汚れを落とすために化学物質は必要ですか？ 人体への影響や環境汚染などが指摘されてから半世紀が過ぎましたが、今も市場は合成洗剤でいっぱいです。家庭から出される有害化学物質は、合成洗剤の成分がその6割を占めています。また、香料公害やPFASなども新たな問題として生まれています。

委員会では毎回石けんを使った実習や学習会を行い、石けんを広める活動に生かしています。大切な水はもちろん家族や自分を守るために、石けんを利用しませんか？

石けんカフェ



おしゃれ着洗いや換気扇掃除などの実演後、お茶を飲みながら石けんの使い方や困りごとなどを情報交換します。

北海道オリジナルの消費材



リサイクル粉石けん
ひなたぼっこ



十勝固形石けん

道内の提携生産者を見つけ、包材や消費材を開発。リサイクル液体石けんの実現に向けても進めています。

親子で水環境を学ぶフィールドワーク せせらぎスクール



下水処理場の水は川に放流されますが、合成洗剤の成分は処理しきれず川の生き物たちの生態系に影響します。川がどのくらいキレイなのか、棲む生き物でわかります。

外部団体との連携

せっけん運動ネットワークの会員として石けんの利用を広める活動

- ・市民と自治体の協力で水環境を守ることを目的に行政訪問
- ・7月のシャボン玉月間にポスター掲示で地域へ呼びかけ
- ・シャボン玉フォーラム(主催：せっけん運動ネットワーク)に参加



2024 年度のシャボン玉フォーラムの様子。全国の生協・農協・漁協・生産者が一堂に集まり、活動の共有と交流をしました。今年は大分県で開催。

合成洗剤追放北海道連絡会の役員として



香害ポスターや石けんサンプルを使い、チラシで市民にアピール

石けんを利用して
水を守る運動に
参加しましょう



石けん出前講座

支部や
地域のイベントなどに
活用できます



「母と女性教職員の会」での様子

組合員、または主に組合員が集まって活動するグループへの学習会として、石けんの使いこなしなどを伝えています。

生活クラブの まちづくり拠点

生活クラブは、人と人との集まりつながりながら知恵と工夫を持ち寄り、課題を解決するためのしくみを創り出してきました。戸配の増加やコロナ禍で組合員同士のつながりが希薄になる中、支部活動を活発にして地域づくりにつなげるために2021年から拠点づくりをすすめてきました。

目的

「人に会う」「人と会える」
場所をつくり、支部活動を
活発にすること

支部活動の活性化
組合員同士の交流や
拡大活動の場

たすけあい
顔が見える関係をつくり、
「エッコロ」で組合員同士が
たすけあう

3
つ
の
柱

まちづくり
自分たちが住む地域の
課題を解決

設置のルール

家賃は
生活クラブから
補助あり

運営に関わる費用（家賃・光熱費・
内装や設備など）は支部活動費から

貸し出しは組合員のみ（ワーカーズや
市民ネットも対象）

週4～5日の開所をめざす



現在、岩見沢・中央・手稲にある拠点の中から、
2023年6月にオープンした **岩見沢支部** のまちづくり拠点 まんまるを紹介します。

名称は、みんながゆるくつながる・
ひとつの輪になることをイメージ

岩見沢市春日町3丁目3-15

2階：生活クラブ まんまる

1階：かふえ ひなたぼっこ
080-9612-5883
火～土 11:30～15:30 (L.O.15:00)



組合員に聞きました

拠点ができて良かったこと

- ・組合員同士の顔が、より見えるようになった
- ・ここに来たら、ピッキング袋の出し方や消費材のこと
などを教えてもらえるので安心
- ・カフェでチラシを見た地域の人が、支部のイベントに
来てくれる



● 拡大活動やイベントで利用

うた&ピアノ Xmas ヨシサード



歌わずにはられない、ほっこり楽しい時間に

カフェを運営する
ワーカーズとの共催
イベントも

まんまる祭りや
展示説明車による拡大に
地域の人も来場



2024 まんまる祭り

● 班会で利用

「かふえ ひなたぼっこ」の
ランチも楽しみ



せせらぎ班

レシピや粉石けんの
使い方をシェア♪



めぐみ班

拠点ができてから、ここで班会をやってます

岩見沢の17班すべてに
名前がついています

遊びに来てね!

2周年の
まんまる祭り
6月29日(日)
12:00～15:00

information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東一丁目4-15 TEL 011(887)8891 FAX 011(887)7226
発行日 2025年6月20日 編集 広報委員会 / WCOPLANS P.O.

2025年度 せっけん使おう! 7月はシャボン玉月間

生活クラブ北海道は、地域生協・漁協・NPO・市民団体などと「せっけん運動ネットワーク」を構成し、全国の仲間たちと石けん利用の普及のために活動しています。1984年から、毎年7月をシャボン玉月間として「合成洗剤ではなく石けんを使いましょう」とポスターで広く市民へ呼びかけています。今年度もキャッチコピー「考えよう!流した水のその先を～せっけんを使って地球を元気に～」をもとにしたポスターができあがりました。今後は、各支部に配布して、運営委員会が中心となり公共施設などに掲示していきます。



せっけん運動ネットワーク

検索

詳しくはHPをご覧ください

<https://sekkennet.org/>

本ページに記載しているイベント等については、生活クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>

せせらぎスクール

日時 7月19日(土) 10:00～12:00

場所 星置川 (札幌市手稲区)

内容 川に棲む生きものの観察を通して、親子で水環境を学ぶフィールドワーク。講師は、教育現場で理科教室支援をしている板谷利久氏。星置川にどんな虫や魚がいるのか探しに行こう!

ニュース

6月3週

主催 石けん運動委員会

再エネ・省エネフェア

日時 7月21日(月・祝) 11:00～15:00

場所 札幌エルプラザ 2階 環境研修室

(札幌市北区北8西3)

内容 生活クラブでんきの生産者による再エネ・省エネのミニ講座に、積み木や紙粘土を使った子ども向けワークショップ、牛乳パックとコアントの交換会も行います。でんきを変えて脱原発・脱炭素を進めましょう。

ニュース

6月3週

主催 サステナブル委員会

幌延サマーキャンプ

日時 7月26日(土)～27日(日)

内容 幌延町では、2001年から「核のゴミ」を地中に埋め捨てるための深地層研究が進められています。全国交流会や、地元の方々との交流を通して現状を知り、核のゴミについて考えます。申込締切は7月4日。

ニュース

6月3週

主催 幌延サマーキャンプ実行委員会



私の基礎は生活クラブ?

南支部 川崎 純子

私は現在、豊かな自然に囲まれた自宅横のスペースを使いギャラリーを経営しています。もとは古本屋をしていて、書庫だったところです。30年間、生活クラブで拡大に取り組んできた私が次にできることは、手作りの面白さを体験してもらうことかなと思っています。ギャラリーでは日本の伝統の竹籠や染め、刺繍や写真、陶芸や絵画、食などのワークショップやマルシェを開催。元気な若者たちとふれあい、未来を見つめています。基礎は生活クラブにあります。人と人が出会い、社会問題に取り組んできて、人としてこうありたいという願いは今も変わりありません。できる人ができる場所で、できる時に、仲間と何かを創造する。この精神は生活クラブ運動の基本です。最初は一人からであっても、同じ気持ちを持った仲間と、作り出す楽しさを見つけてほしいと思います。私はこれからもカルチャートする(耕す)ことを続けていきます。何歳になってもね。

組合員のエッセイを募集します。400字程度。テーマの指定はありません。本部川瀬まで、ファックスか業務で送ってください。



道産間伐材を配合した紙を使用しています